

茅ヶ崎市立病院 通信

当院の取り組みや健康に関する様々な情報をお知らせします

令和7年7月1日発行 特別号

地域の基幹病院として

市民の健康を守るため



特集

新しい市立病院

- 小児科
- 乳腺外科・形成外科
- 泌尿器科



茅ヶ崎市立病院

基本理念

健やか・共創

私たちは、市民の健康を守るために
いつでも・だれにでも良質な医療を提供します。

私たちは、患者さんや地域の医療機関と共に、
効果的かつ効率的な医療を創り、社会の利益に貢献します。

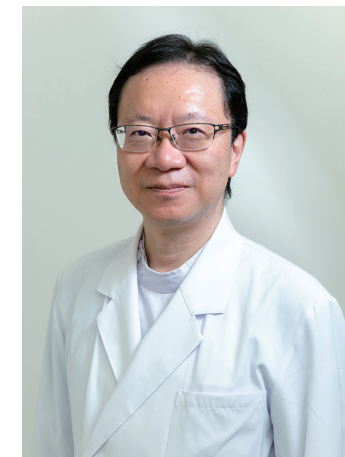
基本方針

1. 市民から信頼される高度で良質な医療を提供します。
2. 急性期医療を担う地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し地域医療の発展に貢献します。
3. 救急医療の充実に努めます。
4. 患者さんの尊厳、権利を尊重し、患者さん中心のチーム医療を行います。
5. 積極的に診療情報を提供し、患者さんへの説明と同意（インフォームドコンセント）に基づく医療を提供します。
6. 医療安全対策、個人情報保護に努めます。
7. 医療機関として、人材育成と研鑽に努めます。
8. 経営の健全化を図り、安定した病院経営を行います。

病院長挨拶

茅ヶ崎市立病院 病院長

ふじなみ きよし
藤浪 潔



日頃より紹介・逆紹介をはじめ、当院の診療にご理解とご支援をいただき、有り難うございます。

当院は「健やか・共創」の基本理念のもと、地域の急性期基幹病院として臨床研修指定病院、地域医療支援病院、災害拠点病院、神奈川県DMAT指定病院、地域周産期母子医療センター、神奈川県がん診療連携指定病院、紹介受診重点医療機関等多くの機能を担ってまいりました。

令和2年からの新型コロナウイルス感染症も下火となり、令和6年度はコロナ前への回帰をめざし、入院患者数・紹介患者数・手術件数を令和元年度以上にすることを目標としました。おかげさまで、入院患者数（延べ、新規とも）、紹介患者数、手術件数いずれも令和元年度を超えることができ、また、救急車の受入数においても令和元年度を越すことができました。

令和5年7月に稼働を開始した手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術数も、令和6年度は外科で74件、泌尿器科で44件、呼吸器外科で7件を施行しており、今年度もロボット支援手術の適応拡大を検討しています。

整形外科では令和5年8月に脊椎センター・人工関節センターを開設し、整形外科全体での手術件数も令和6年度は前年度と比べ261件増加の1,128件と大きく実績を伸ばすことができました。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

救急に関しましては、令和6年末から令和7年始めに流行したインフルエンザにより、入院病床が満床の期間がありました。入院が必要な救急患者さんを診ることが出来ないことがあり、大変ご迷惑をおかけしました。今年度は入院患者さんの後方連携を強化し、救急の入院患者さんをできるだけ受け入れるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これからも救急医療、小児・周産期医療、がん医療をはじめ、より良質な急性期医療を提供できるよう努力してまいります。当院で地域の方々の急性期医療を完結できることを目標にしていきたいと思いますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

院内、地域との連携で 周産期から一般小児まで対応します

地域の中核病院として周産期医療に注力
産婦人科やクリニックとの連携も

当院の小児科は、茅ヶ崎市・寒川町エリアを中心に、小児の入院診療にも対応しています。一般小児科診療から専門医療まで対応するほか、10名の小児科医が在籍し、夜間・休日の救急対応も必ず小児科医が常駐。24時間365日、小児科医がこどもを診られる体制をとっています。

特に周産期医療には力を入れており、年間250件前後の症例があります。地域の中核病院として、神奈川県中部・西部地域から新生児の入院が必要な患者さんをお受けすることもあります。

当院のNICU（新生児集中治療室）では28週からの早産児を受け入れており、外科、心臓外科以外は、早産からその後の一般小児科診療まで、

シームレスに対応できるのも特徴のひとつ。産婦人科が同じフロアにあるので、出産からNICUへの連携もスムーズです。

最近は母乳育児を希望するお母さんも多いので、できるだけ母子が離れないように、自宅近くのクリニックとも連携をとり、病院側の都合で受け渡しが遅れないように気をつけています。

病院内外との密なコミュニケーションで
患者さんが安心できるスムーズな体制

地域のクリニックとは、一般小児科で年10回、周産期では年2回、定期的にカンファレンスを開き、コミュニケーションを取りやすい関係を構築しています。このカンファレンスでは、学会発表と違い、うまくいかなかった症例も含めて発表し、



次につながる教訓を共有するようにしています。こちらから一方的に伝えるのではなく、若い医師も含めてざっくばらんに話すことで、信頼関係を深めることが目的です。

当院が持っている最新の情報を共有することはもちろん、これから実施しようとしているさまざまな施策を伝えることで、協力を得られる関係を築いています。地域のクリニックが躊躇なく当院に患者さんを送れるように、当院の体制、医師について理解してもらうことも重要です。

小児科内でも意思の疎通は取れていると思います。若い医師が多く、若いお母さんが話しやすいというメリットがありますが、そのかわり経験は多くありません。それをベテラン医師が寄り添うことで補い、万全の治療ができる体制を作っています。

また、当院では神経や心臓、腎臓などの専門外来も行っています。

自宅療養が一時的に難しい方の
メディカルショートステイにも対応

この数年、神奈川県が力を入れているメディカルショートステイ事業にも、2024年から対応を始めました。

これは、医療的ケアが必要なこども、心身障がいを持つこどもが一時的に在宅での療養が困難になった場合、短期間の入院が可能になる制度です。

例えばきょうだいの行事、親の入院・出産などのケースがあります。親戚などでは対応できないときに利用される方が増えています。



病床の状況にもよりますが、当院では1週間程度の入院が可能になっています。親の出産などで1週間では自宅に戻ることが難しい場合は、2週間入院したケースもあります。

かかりつけ医以外からの依頼もありますが、普段から地域のクリニックとの関係構築に力を入れているので、始めたばかりですが、受け入れはスムーズに行われています。

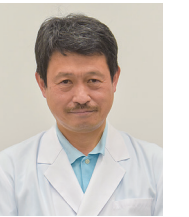
現在のクオリティを落とすことなく
若い医師の教育にも力を入れていく

当院の規模で10人の小児科医が在籍するのは、小児科医療に重きを置いている証だと考えています。出生数が減少している状況を考えると、現在のクオリティを維持するのが大変なことだとわかっていただけたと思います。だからこそ今は、基幹病院である当院が、クオリティを落とさないことが大切です。

当院にも毎年多くの研修医が訪れます。当院で教育を受けた若い医師は高いレベルで周産期医療や救急医療を体験し、その成功体験を周囲に伝えてくれています。研修医自身も、また当院に來たいと言ってくれます。そのような教育はこれから力を入れていきたいと考えています。

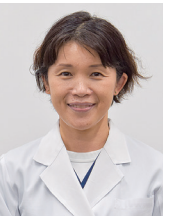
患者さんについても同じで、救急で当院に運ばれた方が、引き続き治療したいと言っただけのような対応を心がけています。必要に応じて地元のクリニックに戻したり、高次の専門医療につなげたり、安心して治療ができる環境を整えていきます。

INTERVIEW



小児科科部長兼
NICU室長
小田 洋一郎

日本小児科学会小児科専門医・指導医、日本内科学会内分代謝科（小児科）専門医・指導医、身体障害者福祉法指定医（心臓機能障害、呼吸機能障害）



小児科副科部長
片山 暢子

日本小児科学会小児科専門医・指導医、身体障害者福祉法指定医（肢体不自由）

乳腺外科と形成外科で 地域での乳房再建の道が拓けました

若い世代にも増えている乳がん
地元でも治療が受けられるように
(和田)

当院で乳腺外科を開設したのは2016年です。茅ヶ崎市立病院に赴任して気づいたことは、進行的状態の乳がんの患者さんが多いということ。現在、仕事の大半が進行がんの治療という状況になっています。

日本全体を見ても生活の欧米化や出産の高齢化、少子化による妊娠期間の短期化などで、若い世代の乳がんが増えています^(※)。そのうえ、コロナ禍の3年ほど受診控えもあり、この数年は進行がんの患者さんが特に増えている印象です。

30代、40代の、まだ仕事や子育てに忙しい若い方は、東京や横浜の大きな病院に通うことに時間を費やすのではなく、地域の病院で安心して治療してほしい。これまで仕事を理由に検診や受診をしてこなかった方でも、生活の場で安心して十分な治療が受けられるとわかれば、多くの方が受診してくれるはず。しかも今年から乳房再建手術も当院の形成外科で実施する体制が整いました。これからは治療の選択肢が増えたことで、より受診しやすく感じていただければと思います。

まだ新しい乳房再建手術
茅ヶ崎で本格的にスタート (三上)

乳房再建術は、アメリカでは学会誌の1セクションになっているほど認められた施術ですが、日本では2013年に保険適用になり、適用から十数年の治療法です。当院で形成外科が開設さ

れたのが2018年。これまでに2例の乳房再建手術を行いました。

症例が少ないのは、開設後まもなくコロナ禍に見舞われたから。コロナ禍では乳房再建のような手術は基本できなくなりました。さらにある種のリンパ腫が乳房再建で使われるインプラントが原因と疑われ、世界的に施術が停滞してしまいます。

一方、まだ比較的新しい乳房再建術は、技術も製品も日進月歩の進化をしています。コロナの期間中にも新しい製品が開発され、日本中で学び直しが行われました。今は信頼性の高い技術、製品が生まれています。それらの製品使用の認可を受けるのにも時間がかかり、今年3月に準備が整い、スタートを切ることができました。

乳がんて乳房を摘出した方の乳房再建は、摘出の後か同時か、何を使うかなど、さまざまな方法があります。患者さんと十分に話し合うことで納得できる方法を選択していただきたいと思います。

乳房再建ができることをアピールし
乳がんの検査、治療の動機に

和田 ▶ 乳房再建手術は必ずするべき治療ではありません。乳房がなくなったというショックは大きいと思いますが、時間が経つと意外と慣れるという方もおられます。一方で、乳房を一度喪失することで、日々の活動が制限されたり、精神的なダメージが大きい、という方もいます。その方のニーズに合わせた治療をご提案します。

三上 ▶ 乳房再建手術というと大変なイメージがあ



りますが、少し手術時間、入院期間が長くなるくらいで、それ以上のメリットがあると考えています。これまで当院で手がけた2例は、どちらも「やってよかった」と言っていると思います。中には術後に違和感があるという方もいるようですが、満足の方が大きいと思います。

和田 ▶ 乳腺外科は普段進行がんの治療に追われていますが、合間に院内外での啓発活動も行っています。早い段階で発見するため検診を定期的に受けることが大切です。仕事や子育てで忙しいということもありますが、治療がたいへんで、乳房の全摘というマイナスイメージもあるため、検診を避け、多少違和感があっても受診しないケースもあるのかと思っています。

三上 ▶ 乳がん治療に関しては、乳房再建をセットとして考えることで、受診控えを防げと思っています。再建手術の技術は進んでいますが、やはり早期の方が選択肢は増えます。進行的状態だと、治療が優先になりますので、自分の組織を使って摘出と同時に再建するのは難しくなります。そういう意味でもがんの早期発見は大事です。

まずは乳がん検診を
乳がんの早期発見が前提

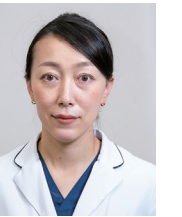
和田 ▶ 今、9人に1人が乳がんにかかると言われています^(※)。かかった人が1人もいないコミュニティの方が珍しいでしょう。それなのに多くの方が「私は大丈夫」と思われているのではないのでしょうか。自分も罹患すると思って、早期発見できれいななおす治療を受けて頂きたいです。

三上 ▶ 病状が落ち着いてからゆっくり改めて再建手術をすることもできますが、やはり選択肢に限られてきます。患者さんの希望を聞きながら私たちでできることを説明し、納得していただける方法を模索しますが、早期の方ができることが増えるということも知っていただきたいと思います。

和田 ▶ 私たちが重視しているのは、意思決定の過程を患者さんと共有すること。要望を聞き、話し合い、乳腺外科と形成外科が密に情報交換をして、患者さんが安心して治療でき、予後も快適に暮らせるように努力しています。

※出典：国立研究開発法人 国立がん研究センター

INTERVIEW



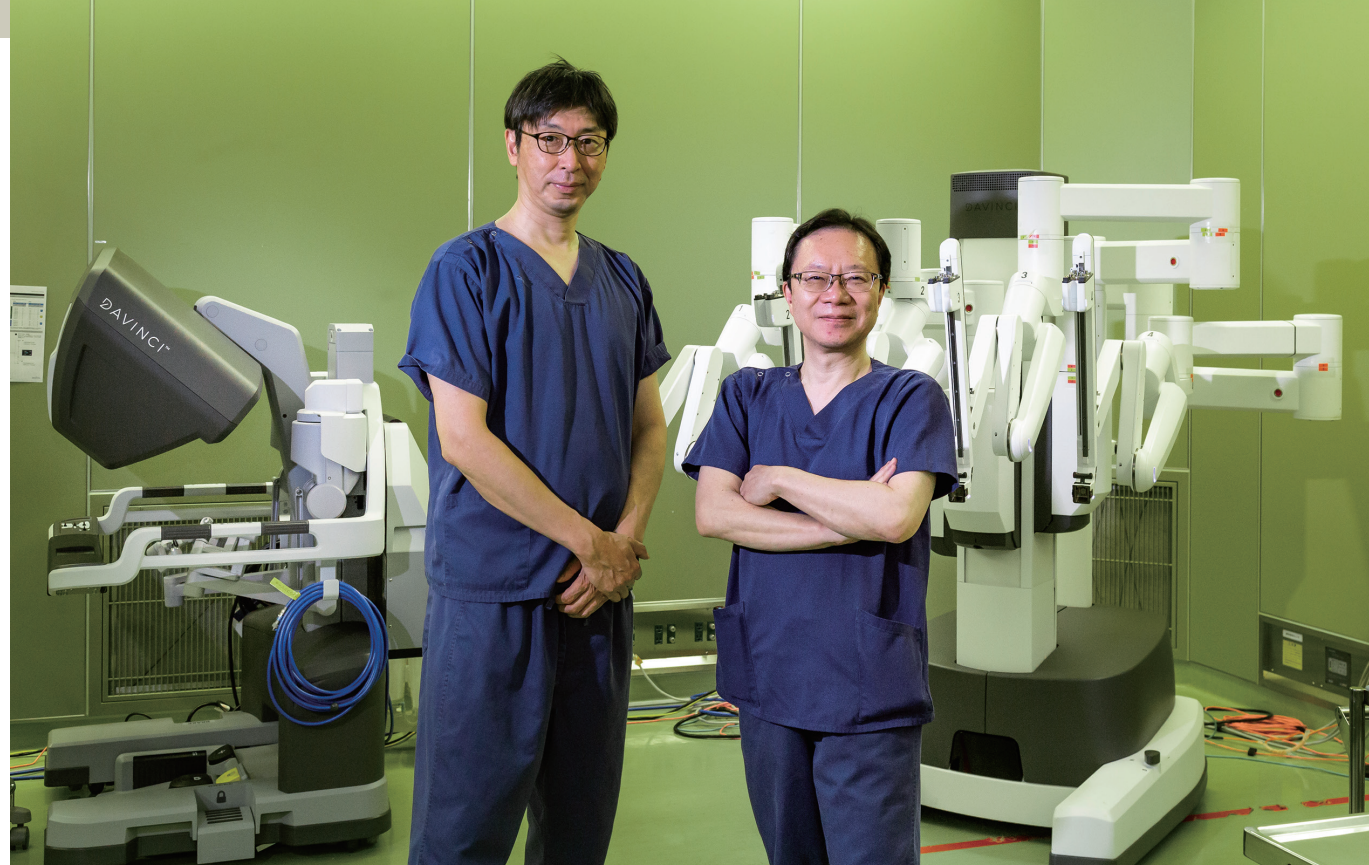
乳腺外科科部長
和田 朋子

日本外科学会外科専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺認定医・専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医



形成外科科部長
三上 太郎

日本形成外科学会形成外科専門医、日本熱傷学会熱傷専門医



必要な医療機器を整え、 スタッフが連携して診療にあたっています

手術支援ロボットの導入で 正確で負担の少ない手術を実現

2023年に当院では手術支援ロボットを導入しました。泌尿器科では一昨年に21件、昨年は前立腺がん40件、膀胱がん4件のロボットを使った手術を行いました。

ロボットを使うことで、「正しい手術の通り道」がわかり、出血ポイントを避けることができます。以前行われていた開腹手術、従来の腹腔鏡手術に比べて出血が少ないだけでなく、時間も短縮され、患者さんの負担が小さい手術が可能になっています。今、泌尿器科では腹腔鏡手術の7割で支援ロボットを使っています。

また当院では2023年度に放射線治療機器も更新され、確実に体への負荷の小さい治療ができるようになりました。このように技術が進むことで、手術や治療を行う医師の技術の上達も早くなってきています。私たちより早くから支援ロボットを導入した病院もありますが、当院はこれまでの実績や経験からスムーズに技術導入がで

き、多くの患者さんがロボット手術を受けられるようになっています。

内科医との病診連携にも力を入れ どんな症状でも紹介してもらえる関係に

泌尿器科は、地域で開業しているクリニックが少ないという特徴があります。ですから、クリニックとの関係性はとても密で良好と言えます、当院への患者さんの紹介はスムーズに行われています。

ただ、泌尿器科系の病気が必ずしも泌尿器科のクリニックで診られているわけではありません。何か病気の症状があったとき、まず内科のクリニックに行き、そこで泌尿器の疾患が見つかる、あるいは疑われることも少なくありません。

そのようなケースでは、私たちに相談してほしいのですが、あまり知らない病院の医師に紹介するのはためられることもあるでしょう。例えば軽い排尿障害であれば、病院の泌尿器科をわざわざらせたくないとするクリニックもあると思います。

当科では、どんな軽い症状でも、紹介していただきたいと考えています。5件の紹介のうち4件は当科で治療の必要がない病気でも、1件大きな病気が見つかるかもしれません。ですので、「遠慮なく全部送ってください」と言いたいのです。

それで3年ほど前から、地域の内科クリニックへの訪問を始めました。まずは、これまでに当院を紹介していただいたクリニックに、お礼を兼ねてあいさつに行っています。普段は紹介状だけの関係ですが、これを機に実際に顔を合わせ、話をすることでお互いを理解しようと考えています。ひいてはそれが患者さんのためになるはずですよ。

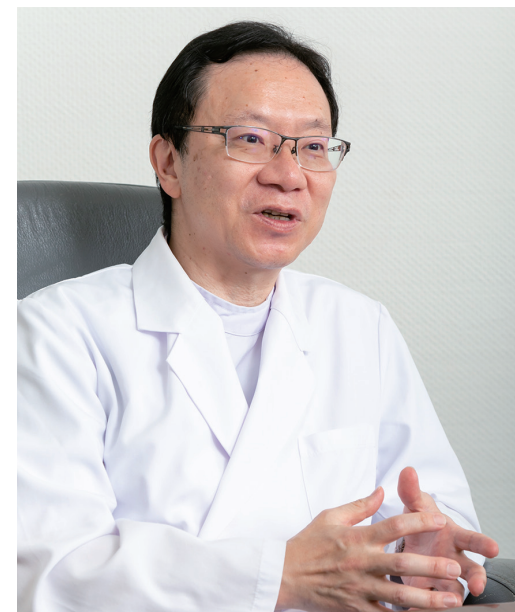
今のところ訪問できるのは年間3、4件のペースなので、関係ができたのは十数件だけですが、成果は上がりつつあります。これから今までつながりが薄かったクリニックも訪問し、当院の取り組みについても広めていきたいと思っています。

超高齢社会で増えるがん患者 より安全な治療を追求

茅ヶ崎だけの問題ではありませんが、超高齢社会になったことでがん患者は確実に増えています。当院では、ロボット支援手術、放射線治療機器だけでなく化学療法でも安全な治療を行っています。

医療が進んで他の病気やケガで亡くなる方が減ったことで、相対的にがん患者が増えてはいますが、がんも亡くならない病気になりつつあります。

やはり重要なのは早期発見です。膀胱がんは排尿障害など自覚症状があるので比較的早い段



階で見つかりますが、前立腺がんは自覚症状が出にくいので、定期検診などで早く見つけることが大切です。問題はPSA（前立腺特異抗原）検診を実施していない自治体があることです。茅ヶ崎もその一つです

実は、PSA検査では「見つけなくてもいいがん」を見つけてしまうことがあります。実際に、検査で前立腺がんと診断されても、体への負担を考えてあえて治療しないケースも1割ほどあります。もちろん、その後の検査で必要となればすぐに治療を行うので心配無用です。だから検査が不要、というわけではありません。ちょっとでも異変を感じたら、まず診察を受けるようにしましょう。

他にも女性の尿失禁に対する経膈テープ固定法（TVT法）、前立腺を糸で引き上げる内視鏡治療（UROLIFT法）など、症状と年齢を考えて安全で最適な治療を実施しています。

充実したスタッフが公立病院の強み 泌尿器科をハブにした治療を

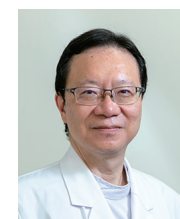
排尿障害に対して薬を処方し、それで治らなければあきらめるという患者さんも少なくありません。

当院では、様々な症状にも対応できるよう必要な設備を整えていますが、さらに誇れるのはそんな医療機器を扱うスタッフたちです。コメディカルも含めた当院に勤めるスタッフが病院の強みなのです。

当院ではそんなスタッフたちが連携して診療にあたっていますので、内科では難しいような病気でも、当科をハブにして患者さんの治療に当たっていただければと思います。

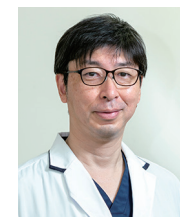


INTERVIEW



病院長
藤浪 潔

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医、身体障害者福祉法指定医(ぼうこう又は直腸機能障害)



泌尿器科科部長
杉浦 晋平

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医、身体障害者福祉法指定医(ぼうこう又は直腸機能障害)

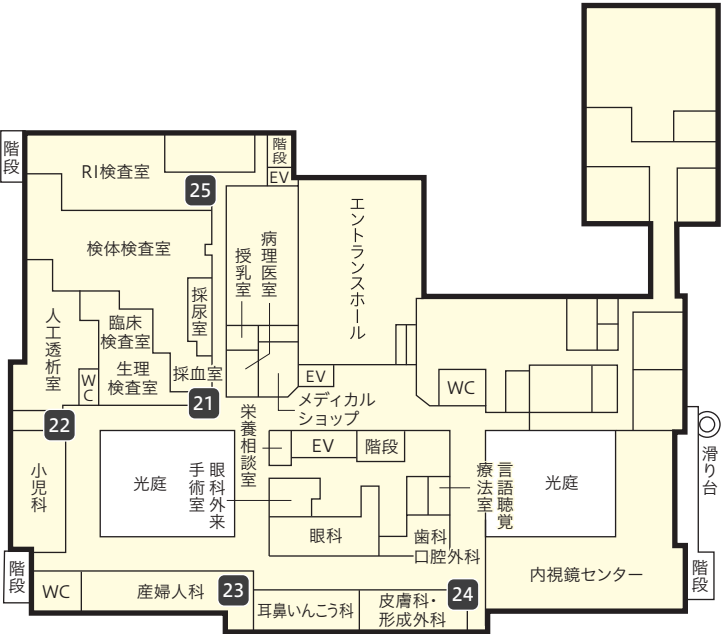
病院の概要

令和7年4月1日現在	
開設年月日	昭和18年8月26日
病院事業管理者	中沢 明紀
病院長	藤浪 潔
所在地	〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村五丁目15番1号
診療科目	総合内科・脳神経内科・呼吸器内科・消化器内科・代謝内分泌内科・循環器内科・腎臓内科・リウマチ膠原病内科・小児科・外科・消化器外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・乳腺外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・麻酔科・精神神経科・歯科口腔外科
病床数	401床（一般）
主な認定・指定等	地域医療支援病院 神奈川県がん診療連携指定病院 地域周産期母子医療センター 臨床研修指定病院 災害拠点病院 神奈川県DMAT指定病院 DPC対象病院 救急告示病院

フロアガイド

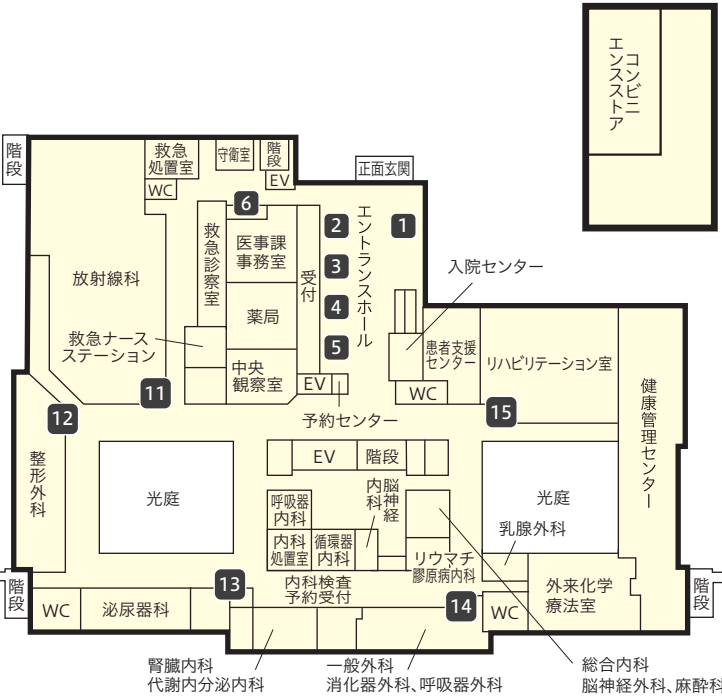
2F

- 21 検査科
採尿、採血、超音波検査
心電図、脳波、呼吸機能
- 22 小児科、人工透析
- 23 眼科、眼科外来手術室、産婦人科
耳鼻いんこう科
- 24 皮膚科、形成外科
歯科口腔外科
消化器内科・内視鏡センター
- 25 放射線科、RI検査



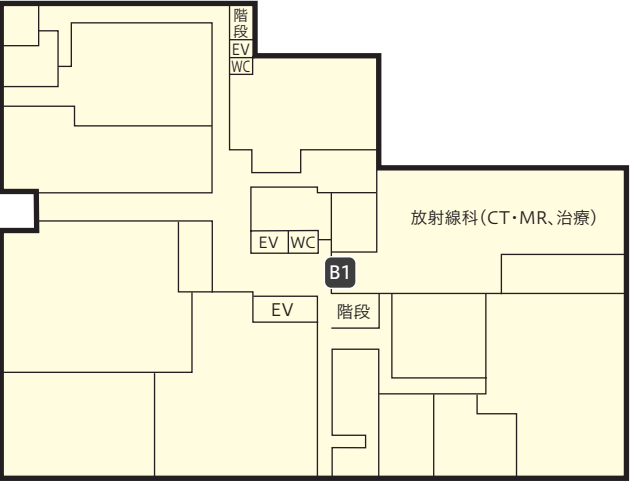
1F

- 1 受診相談
- 2 再来受付、保健確認窓口、予約併診窓口
- 3 新患受付、紹介患者受付、各種書類受付
- 4 会計窓口、計算窓口
- 5 薬局窓口
- 6 夜間・休診診療、入院受付
- 11 放射線科、X線、CT、MR
- 12 整形外科
- 13 腎臓内科、代謝内分泌内科
泌尿器科、呼吸器内科
- 14 総合内科、一般外科
消化器外科、呼吸器外科
脳神経外科、乳腺外科、
リウマチ膠原病内科、循環器内科
脳神経内科、麻酔科・外来化学療法室
- 15 リハビリテーション科
リハビリテーション室



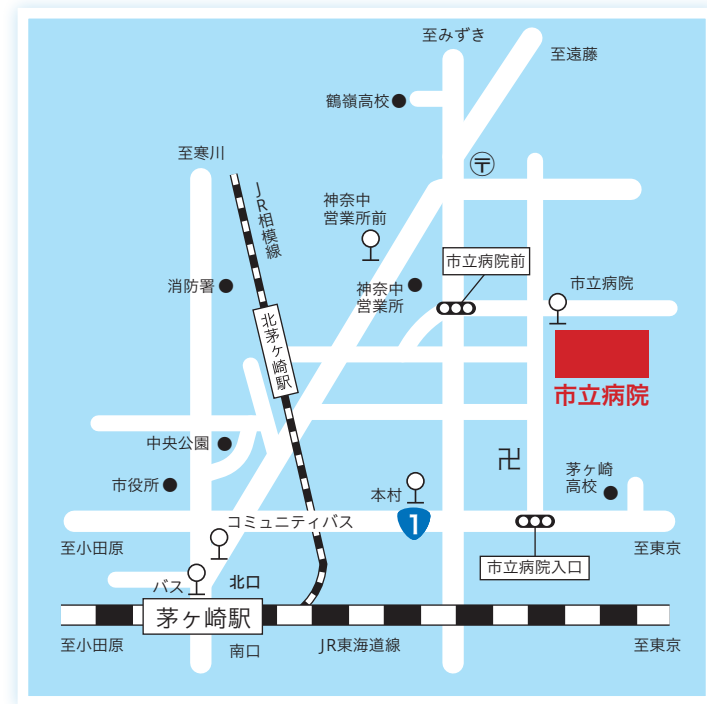
B1F

- B1 放射線科
CT、MR、治療



(令和7年6月現在)

交通案内



電車をご利用の場合

東海道線 茅ヶ崎駅(北口)下車 徒歩25分
相模線 北茅ヶ崎駅下車 徒歩10分

バスをご利用の場合

JR茅ヶ崎駅(北口バスターミナル)より

■4番乗り場

室田循環(茅14)・高山車庫行(辻09)
藤沢駅北口行(藤21)
『市立病院』下車
藤沢駅北口行(藤07・08)・辻堂駅北口行(辻01)
『本村』下車徒歩10分

■1番乗り場

湘南ライフタウン行(茅03)・文教大学行(茅50)
湘南台駅西口行(湘11)
『神奈中営業所前』下車徒歩5分

■2番乗り場

鶴が台団地行(茅15)・松風台行(茅17)・(茅81)
湘南みずき行(茅19)
『神奈中営業所前』下車徒歩5分

JR辻堂駅(北口バスターミナル)より

■6番乗り場

市立病院行(辻08)・茅ヶ崎駅行(辻09)
『市立病院』下車

コミュニティバスをご利用の場合

JR茅ヶ崎駅北口より

鶴嶺循環市立病院線(北コース・南コース)
『市立病院』下車

JR茅ヶ崎駅南口より

中海岸南湖循環市立病院線
東部循環市立病院線(松が丘コース)
『市立病院』下車

JR香川駅より

北部循環市立病院線
『市立病院』下車

JR辻堂駅西口より

東部循環市立病院線(小和田・松浪コース)
『市立病院』下車

P 駐車場は有料になります

- ・30分まで無料
- ・30分を超えて3時間まで200円
- ・3時間を超えた場合には30分ごとに50円

令和7年度 茅ヶ崎市立病院通信 特別号

発行/茅ヶ崎市立病院 患者支援センター

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1 TEL:0467-52-1111(代) FAX:0467-52-1133